

木原武一著「大人のための偉人伝」新潮選書、新潮社 1989年7月20日刊を読む

天才の学び方(14) キュリー夫人 (1867～1934)

○学生時代の思い出

- ・「つねにつねになつかしき心のふるさと、かの屋根のもとに帰りゆかん。そはひそやかに、励み努めし日なり、思い出のいまもなおとどまる地なり」

○「人生の最大の報酬は、知的活動によって得られる」

○屋根裏部屋で学んだ日々について

- ・「この期間がわたくしに与えてくれた幸福は、口にもつくせぬほど大きなものでした。わたくしはあらゆる雑用から解放され、学問に全身全霊を打ち込むことができました。
- ・未知のことがらを学ぶたびに、よろこびが胸にあふれる思いでした。
- ・友だちもないまま、パリという大都会の片隅にひっそりと暮していたわけですが、たよりにする人も、援助してくれる人もないことを悲しく思ったことはただの一度もありません。
- ・ときに孤独の思いにふけることはあっても、わたくしの日常的気分は、安らかな安息、それに、完全な道徳的満足のものでした。」

○「わたくしは、『聴講』、『実験』、『図書館での勉強』に時間を配分し、さらに夕方からは、自分の部屋でしばしば夜中すぎまでいっしょうけんめい勉強しました。

- ・わたくしは、今まで知らなかった新しいことをつぎつぎに学んでゆくよろこびにひたりきっていました。
- ・学問の王国、このまったく未知の王国が突如として目の前に現出したような思いでした。
- ・そして、自分はずいぶん、いつでも好きな時にそこへ入ってゆける身分を獲得したのでした」

○真理の探究を唯一絶対の善と考えるところに、彼女の根本の哲学があった。

